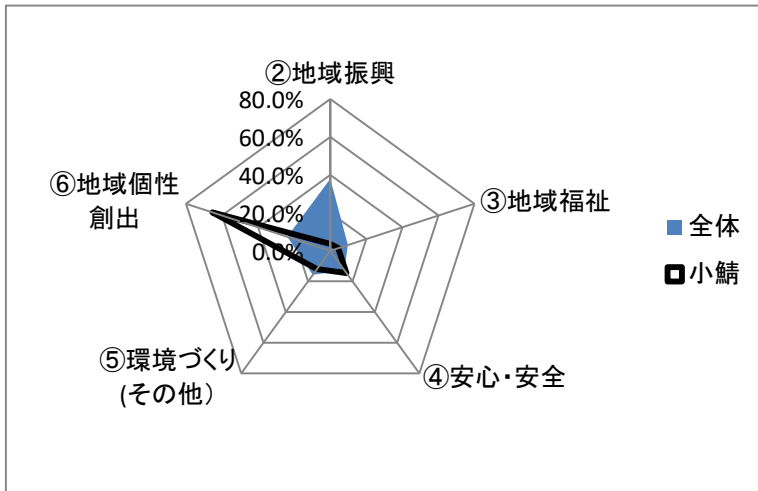


小鯖地域づくり協議会 地域づくり交付金事業概要(令和3年度)

■地域の情報

地域人口	4,196人	自治会数	23
世帯数	1,655世帯	自治会加入率	87.7%

※数値は、令和4年4月1日のもの



■決算状況

交付金配分枠	7,508,000 円
交付金決算額	7,021,892 円
その他収入	322,940 円
交付金決算額／配分額	93.5%

各分野の決算

①協議会運営	5,558,352 円
②地域振興	64,884 円
③地域福祉	77,227 円
④安心・安全	261,099 円
⑤環境づくり(土木工事)	0 円
⑤環境づくり(その他)	215,353 円
⑥地域個性創出	1,167,917 円
決算総額	7,344,832 円

■地域づくりの活動方針(テーマ)

地区住民および各種団体が連携・協力して、豊かで住みよい安全な地域づくりを進める。

■総括

今年度は、負担軽減を目指し専門部会を2事業で活動したが、コロナ感染対策により屋内事業を中心に全て中止となった。外部の協力を得て「全住民アンケート」を分析・検討を重ねその結果から3つの課題を中心に、第4次地域づくり計画策定委員会を設置し策定を進める。

■分野別事業名

① 協議会運営	事務局費(事務局人件費、事務費、通信費、費用弁償等)
② 地域振興	ボランティア団体立ち上げに向けて、地域活性化応援
③ 地域福祉	生きがいづくり支援、高齢者化社会に向けた施策、ふれあい配食サービス、小鯖敬老会、子育てサロン支援
④ 安心・安全	生活安全対策、交通安全対策、防災訓練・研修推進、災害発生防止対策、避難時必要資材充足、小鯖っ子見守り隊の充実、青色防犯パトロール、防犯灯設置推進、掲示板・反射鏡設置補助
⑤ 環境づくり	地域環境整備事業、花いっぱい運動推進、一斉清掃活動推進
⑥ 地域個性創出	ニュースポーツ振興、猫TNR活動補助、小鯖夏まつり支援、小鯖ふるさとまつり支援、若者のびのび事業、さばろっち活動、竹馬世界選手権大会、社会教育協賛、小鯖これからプロジェクト、萩往還看板移設

■重点的に取り組んだ事業

	事業名	小鯖これからプロジェクト	決算額	51,469円
①	目的	地域の各種団体の活動の見直しを含め地域づくりの取組み・仕組みの課題を探り具体的検討を行い、新たな地域づくりを目指す。		
	実施内容	第4次地域づくり計画策定に向け、令和3年度は「全住民アンケート」の結果に基づき役員や世代別など様残な形で説明会や分析を進めた。		
	実施時期	地域住民や、世代別で分析検討を4～6月で実施、いくつかの課題から、地域住民による助け合いの仕組み検討が10月～3月にわたり開始された。		
	参加人数	地域住民多数、プロジェクトの構成員(協議会事務局役員、地域交流センター地域担当、協働推進課、やまぐち県民活動支援センター、山口市市民活動支援センター、山口市北東地域包括支援センター)が支援及び参加した。		
	成果	3月時点で第4次地域づくり計画策定の準備へ向け目鼻が付いた。		
	評価	昨年度に続き、全住民アンケートの結果を踏まえ、第4次地域づくり計画の策定に反映すべく、アンケート結果の分析・説明を各年齢層や、役割毎に行った。各種団体の役員等の役割の見直し(役の棚卸)を外部支援団体の支援を受け行った。団体の事業内容、各役員の業務の見える化が行われ、計画策定に反映できる材料が揃った。		
	今後に向けて	次年度以降計画策定委員会の設置及び具体的計画立案を最重要課題として取り組む。		
	事業名	自主防災支援事業	決算額	155,719円
②	目的	いつ発生するか予測できない自然災害に対して、地域の防災意識の向上に努め、具体的な避難所資材を充実させ各種の自主訓練に役立てる。		
	実施内容	令和2年度の「小鯖地域防災実動訓練」の実施を手本に、コロナ禍で実施できる訓練内容を絞り込み計画した。安心安全部会のサロン講座に協力した。自主防災及び避難に関連した資材補充を行なった。		
	実施時期	令和3年10月～令和4年3月		
	参加人数	中止により無し。		
	成果	研修等は中止したが、梅雨時期や、台風、等の時期に併せて、啓発チラシを配布する等、地域住民の防災意識を繋げた。高齢者に対応した簡易ベッドの購入。啓発資材準備。		
	評価	平成21年度の被災の記憶が薄れるなか、昨年度山口市総合防災訓練の開催を受け、一部ではあったが地域住民も参加し気持ちを新たにしたが、本年度はコロナ感染防止の観点から、タイムリーな情報発信(コロナ対応のチラシ、自主避難の注意点、避難手段)等を行った。年度末の3月に防災学習を計画したが中止せざるを得なかった。これらを次年度に活かし防災の基本的な知識の拡充に繋げる。		
今後に向けて	「災害は忘れた頃にやって来る」事からしても、研修訓練等は継続し、地区単位の防災活動も支援する。避難時に必要と思われる資材を主に補充していく。			
	事業名	高齢化社会に向けた施策	決算額	30,468円
③	目的	高齢化を迎えた現実を直視し、地域住民・家族への具体的なサポートや知識の向上、地域の助けあい等の支援が出来る環境づくりを目指す。		
	実施内容	高齢者生きがいセンターを活用したさばろっち交流広場活用のPR活動、健康や生きがいをポイントにしたグランドゴルフの支援に取り組んだ。認知症サポーター講習会(11/13)開催予定をしたが、コロナ感染対策上中止とした。		
	実施時期	「さばろっち交流広場」常時開設。健康グランドゴルフ(10月17日)。		
	参加人数	「さばろっち交流広場」の利用者数は約300人/年で減少傾向(里の駅にも集いの場が出来たため)。「健康グランドゴルフ」(43人)		
	成果	グランドゴルフは大会としてでなく健康増進を目標にしたもので、参加者は楽しくプレー出来、目的を達成した。		
	評価	講習会【認知症サポーター講習、福祉体験】の取組みを計画したがコロナ感染対策の観点から全て中止となった。しかし、今後においては部会の枠を超え、「助け合い、支え合い」への取組み方の中で生きがいの探求、助け合いの仕組みづくり等総合的に検討して行く必要があり、次年度は助け合いの具体的な活動が見えてくるところへ引き上げる。		
今後に向けて	継続して活動すると共に、関連団体等との共催や異年齢との交流が出来るよう支援していくことが必要と考える。			